

# < 実践事例 大島町立つばき小学校 >

## 1. 取組・活動名

「海保護プロジェクト」

## 2. 取組・活動のねらい

- 海浜教室で大島の海（自然）を知り、郷土愛の心を養う。
- 塩工場、くさや工場見学を通して、海の環境を守ることが特産物（伝統食材）を守ることであることを理解する。
- 海浜清掃で砂浜を綺麗にする活動を通して、生涯にわたり大島の環境を維持しようとする意識を高める。

## 3. 教育課程上の教科名・時数

低学年「生活科・6時間」  
中学年「社会科・8時間」  
高学年「総合的な学習の時間・6時間」

## 4. 実施上の工夫

- ・日常的に自然と関わることができるように、大島の児童にとって身近な海を活動の場とする。
- ・児童が身近な自然や社会、人々と意欲的に関わる多様な活動や体験を重視した指導を展開していく。
- ・6年間を通して、児童一人一人が人と自然との関わりや、社会、エネルギーとの関わり等について総合的に理解していけるように、児童の発達の段階に応じて環境教育のねらいを焦点化していく。

## 5. 本取組・活動の内容



### 「海浜教室（低学年）」

- ・大島北部にある海水浴場で海浜教室を行った。保護者やゲストティーチャーの協力も得て、児童は岩場での観察活動を楽しんだ。
- ・事前に、岩場や潮だまりでよく見かける生き物の名前や、見つけやすい場所、また、危険な海の生き物についても学習した。
- ・当日は、安全に留意しながら、魚やかに、貝やナマコなどを見つけ、捕まえ、観察した。
- ・実際に海で活動することで、海を知り、海に親しむことができた。また、自分達の身近な海にたくさんの生き物が生息していることを知り、海の豊かさを学んだ。



### 「塩工場・くさや工場見学（中学年）」

- ・塩工場の見学に行き、塩がどうやってできるか、どのように塩作りがされているかを学んだ。大島は海に囲まれており、大島でとれた海水を使って、塩を作っている。こうしてできた塩は、大島の特産物であり、全国各地へと運ばれていることを知った。
- ・くさや工場では、おいしさを追究する工場の方々の苦労を実感することができた。美味しいくさやには、大島近海で捕れた新鮮な魚と、受け継がれてきた秘伝の液が重要であることを見学から学んだ。
- ・また、その伝統的な味を試食した。農林水産総合センターでは、豊かな海を守り、魚や貝、海草などの資源を生かすために工夫している様子を学んだ。
- ・海を守ることが、原料となる海水やそこに暮らす生き物たちを守ることに繋がり、特産物を守ることに繋がっていることに気づき、海の環境を守ることの大切さを実感することができた。



### 「海浜清掃（高学年）」

- ・海のゴミを拾い、海の環境を綺麗にする活動を役場の方たちと共に行った。夏に遊んでいた砂浜を何日もかけて綺麗にしてくれている人達がいなかったことや、その活動に参加した経験から、自分たちが生涯暮らしていく大島の環境を守ろうとする意識を養うことができた。そして、自分たちにも小さなことから出来ることに気付くことができた。
- ・夏休みの宿題で書いた日記には、きれいにした浜辺で遊んでいた時に見つけたゴミを持ち帰った内容のものや、綺麗にした浜辺で観光客が楽しそうに遊んでいることへの喜びを表したものなどがあつた。大島の環境を守ることが、大島の暮らしを守ることに繋がることを知るきっかけとなった。

## 6. 成果

- ・自分達の身近な海にたくさんの生き物が生息していることを知り、海の豊かさを学んだ。
- ・綺麗な環境の中では、様々な生き物が生きられることを学んだ。
- ・普段生活の中で使っている塩や特産物について学ぶことで、海の環境を守ることが大島の特産物（伝統食材）を守ることに繋がっていることに気付くことができた。
- ・綺麗になった海浜を見て、小さなことでも自分たちに出来ることに気付くことができた。
- ・実際に海で活動することで、海を知り、海に親しむことができた。